



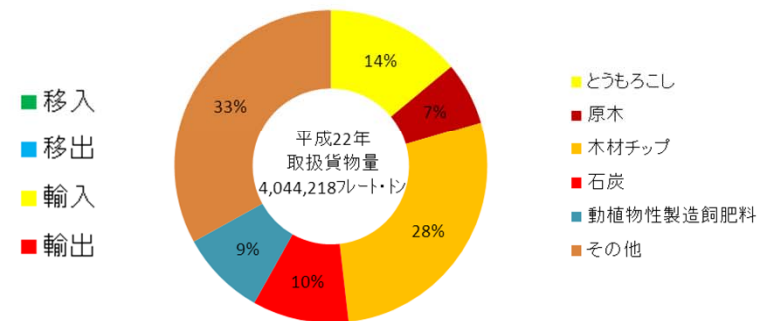
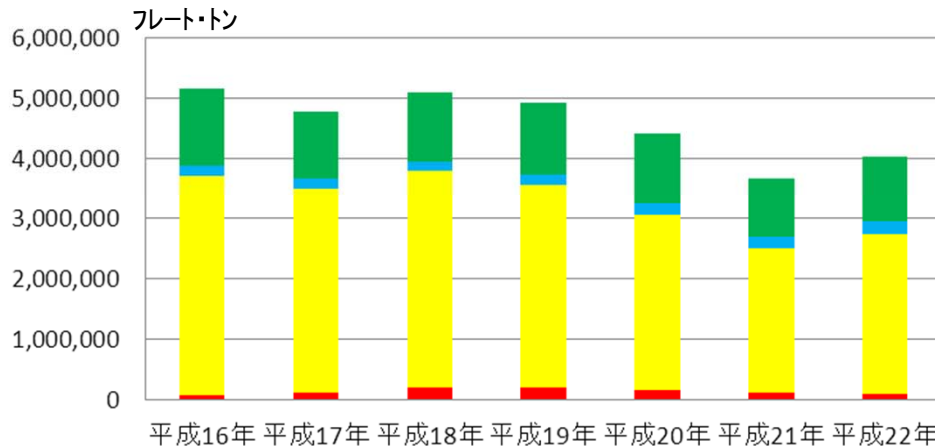
石巻港港湾計画【軽易な変更】



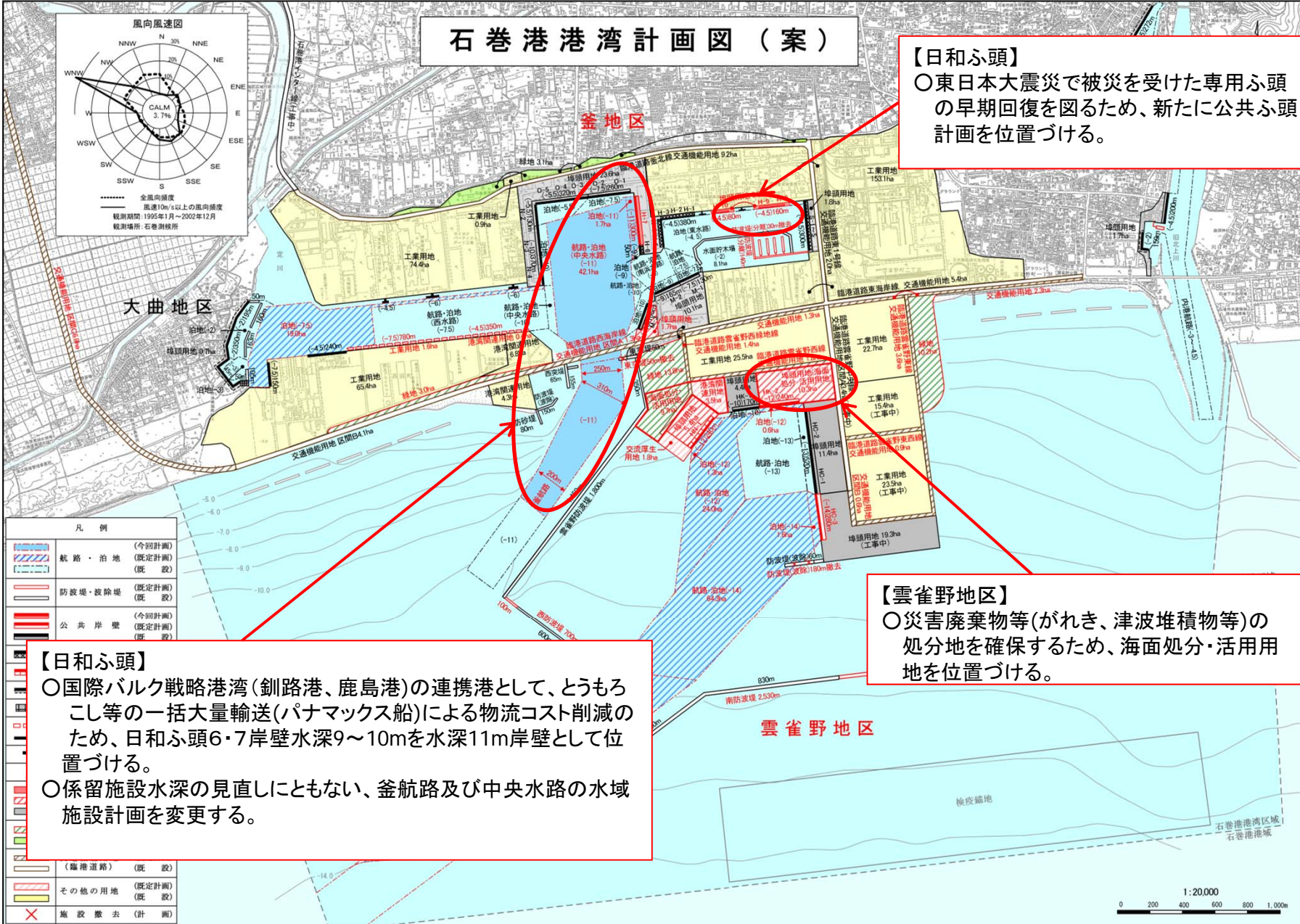
石巻港の概要(平成17年3月改訂:目標年次平成20年代後半)

- 石巻港は、仙台湾の北に位置し、紙・パルプ、飼肥料関連、木材・合板関連を中心とする産業の輸入基地、生産基地として産業活動を支える典型的な工業港である。
- 主な取扱貨物は木材チップ(28%)・とうもろこし(14%)、石炭(10%)、動植物性製造飼肥料(9%)、原木(7%)となっている。
- 平成23年5月に国際バルク戦略港湾に選定された釧路港及び鹿島港の連携港として、2015年までパナマックス船のセカンドポートとしての役割を担っている。
- 東日本大震災により、東水路北側背後に立地している企業の係留施設(専用ドルフィン)に甚大な被害が発生しており、早急な回復が求められている。
- 東日本大震災により、石巻港周辺市町に大量の災害廃棄物等(がれき、津波堆積物等)が発生しており、処分場の確保が求められている。

石巻港の貨物量推移



石巻港港湾計画図（案）



【日和ふ頭】
 ○東日本大震災で被災を受けた専用ふ頭の早期回復を図るため、新たに公共ふ頭計画を位置づける。

【日和ふ頭】
 ○国際バルク戦略港湾(釧路港、鹿島港)の連携港として、とうもろこし等の一括大量輸送(パナマックス船)による物流コスト削減のため、日和ふ頭6・7岸壁水深9~10mを水深11m岸壁として位置づける。
 ○係留施設水深の見直しにともない、釜航路及び中央水路の水域施設計画を変更する。

【雲雀野地区】
 ○災害廃棄物等(がれき、津波堆積物等)の処分地を確保するため、海面処分・活用用地を位置づける。

計画変更の概要(釜地区)

■背景・課題

○国際バルク戦略港湾の連携港として2015年までにパナマックス船のセカンドポートに対応した岸壁水深が求められている。

■変更内容

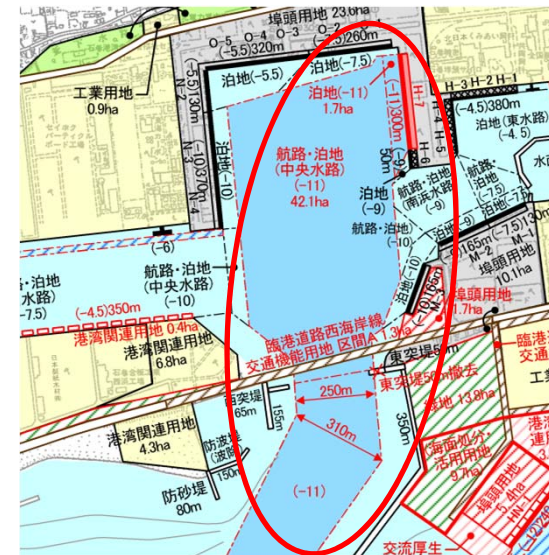
○既設の公共埠頭計画及び水域施設計画を変更する。

【既定計画】



岸壁 水深10m × 185m
 岸壁 水深 9m × 165m
 中央水路 水深10m
 釜航路 水深10m

【今回計画】



岸壁 水深11m × 300m
 岸壁 水深 9m × 50m(物資補給岸壁)
 中央水路 水深11m
 釜航路 水深11m

計画変更の概要(釜地区)

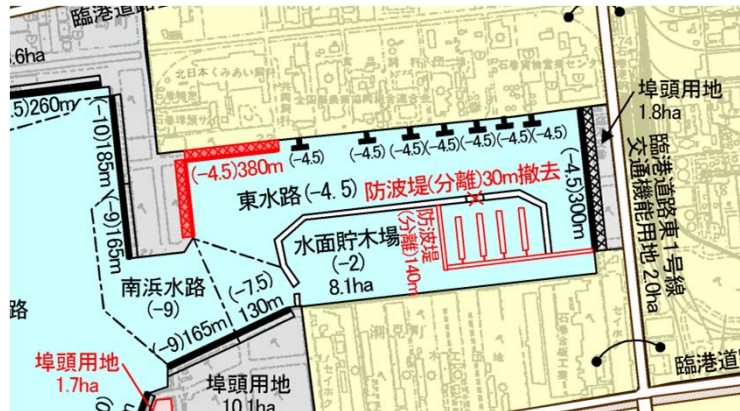
■背景・課題

○東日本大震災で被災を受けた専用ふ頭の早期回復が求められている。

■変更内容

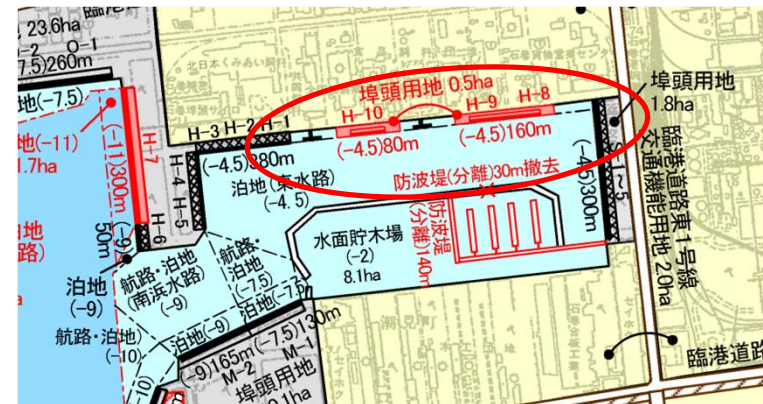
○新たに公共ふ頭計画を位置づける。

【既定計画】



水深4.5mドルフィン7バース

【今回計画】



水深4.5m 岸壁3バース延長240m
 水深4.5mドルフィン5バース 撤去
 水深4.5mドルフィン2バース 廃止

計画変更の概要(雲雀野地区)

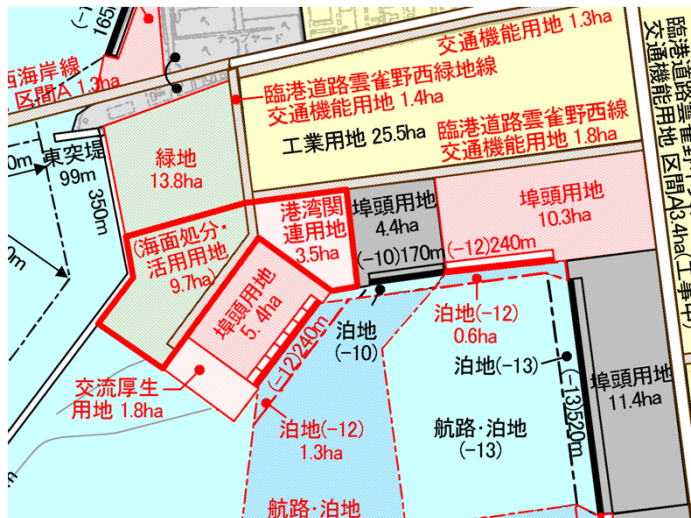
■背景・課題

○東日本大震災で発生した災害廃棄物等(がれき、津波堆積物等)の処分用地の確保が求められている。

■変更内容

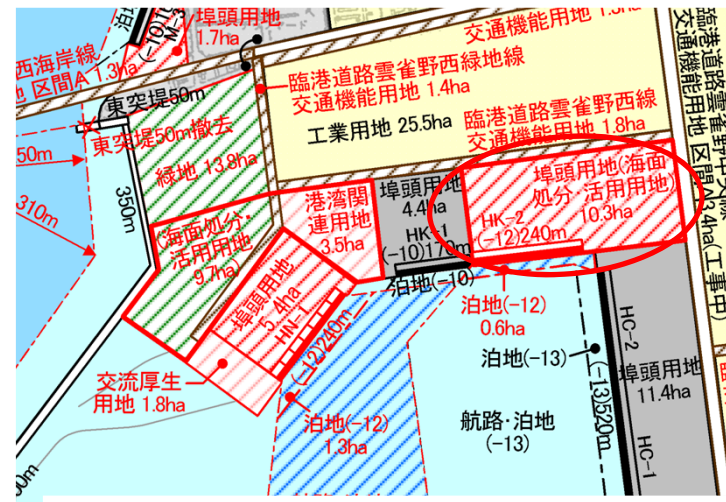
○雲雀野地区のふ頭用地に、海面処分・活用用地を計画する。

【既定計画】



ふ頭用地A=10.3ha

【今回計画】



ふ頭用地(海面処分・活用用地)
A=10.3ha